

(別紙様式1)

令和7年度学校評価実施計画

学校名 大分県立別府支援学校

前年度評価結果の概要

○教科化や自立活動の見直しを実施できている。次年度は、授業実践を中心として題材計画や内容の妥当性を検証し、必要な加筆修正を行いながら研究を進める。
○児童生徒の障がいの状況や置かれている環境等から各自に必要な外部機関との連携を進めることができた。次年度は、継続した取組と既存の文書(個別教育支援計画、医ケア校外実習マニュアル等)を活用した情報共有や実施を深める。
○働き方改革を進めていくとこなす業務量がどうしても課題となる。次年度は、作成する書類で内容が重なるものの精選や一度作ったものをほかの場面で活用する等の視点で業務量削減についても取組を進める。

学校教育目標	中期目標	重点目標
児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育実践を通し、自立と社会参加をめざし主体的に学びに向き合い心豊かに生きていく児童生徒を育成する。	・児童生徒が自立や社会参加に向けて、主体的に学ぶ授業づくりができるよう、特別支援教育に関わる専門性の向上に取り組む。 ・児童生徒の「困り」を把握・理解し、多方面から支援するために関係機関との連携の充実に取り組む。 ・児童生徒と向かい合う時間を確保するための業務の工夫・改善に取り組む。	・児童生徒の主体的な学びを支える肢体不自由教育・病弱教育の充実。 ・社会とのつながりや学びの連続性を意識した教育内容の改善。 ・子どもに向き合う時間の確保を意識した働き方改革。

PL:プロジェクトリーダー, SL:サブリダー				
重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
児童生徒の主体的な学びを支える肢体不自由教育・病弱教育の充実 【Ⅰ課程の児童生徒】 自らの障がいの状況と課題を理解し、主体的に学ぶ 【Ⅱ～Ⅳ課程の児童生徒】 教科を学ぶ意義を理解し、見方・考え方を働かせ主体的に学ぶ	【校内研究】 ①「教科の見方・考え方」を働かせた授業実践100% ②内容・目標が適切に設定された「自立活動」実践100% 【ICT機器活用】 児童生徒が主体的にICT機器を使用した授業の実施率100%	【Ⅱ～Ⅳ課程】 生活、理科、社会について、特にその教科の特有の「見方・考え方」を働かせる授業実践	①「教科の見方・考え方」の基本的研修(6月までに) ②学部ごと1実践以上実施。題材レベルの学習指導案作成とそれに基づく授業実践と反省(2学期) ③授業実践の成果と課題を「事例」としてまとめる(3学期)	PL:研修主任 SL:学部主事
		【Ⅰ課程・Ⅳ課程(中学部・高等部)】 個別に指導内容・指導目標が設定された「自立活動」の実践	①「自立活動年間題材計画」をもとに題材の構想を練る(1学期) ②学部ごと1実践以上実施。題材レベルの学習指導案作成とそれに基づく授業実践と反省(2学期) ③実態把握から実際指導までの流れ「事例」としてまとめる(3学期)	PL:学部主事(小) SL:学部主事(中、高)、研修主任
		【ICT機器活用】 児童生徒の特性に加えて教科の特性を踏まえてICT機器の活用方法を検討した授業実践	①教職員対象のICTに関する研修(モラルを含む)を年4回実施 ②教科の特性や児童生徒の特性を理解し、各自が適切に利用できる授業実践(実践報告書の作成率100%)	PL:情報主任 SL:生徒指導主任
社会とのつながりや学びの連続性を意識した教育内容の改善 ～関係機関との連携を見据えて～ 【全児童生徒】 自分の課題やよさに気づき、社会やまわりの人と適切なかかわりができる 【医療的ケア児童生徒】 校外学習に参加し、地域・社会で行われる活動に参加できる	【専門家との連携】 児童生徒の様々な「困り」にチーム対応した実施率100% 【教育課程改善】 年間指導計画が系統的になっている100% 【学校安全】 医療的ケア児童生徒が「校外学習」に保護者付き添いなしでの参加100%	【関係機関・専門家との連携】 困難事例に対して外部関係機関や専門家、SC、SSWと連携したサポート会議等チームで対応	①全児童生徒の課題と関係機関との支援状況を学協会・学年会で共有 ②困難事例に対してチームで取組。方法や内容を職員会議(いじめ不登校対策委員会など)等で職員間で共有	PL:教育支援主任 SL:教育相談コーディネーター、学部主事
		【教育課程の改善】 令和7年度年間指導計画に記載された「教材」「指導内容」が学習指導要領に沿って系統的に配置されているかを点検	①「教材」「指導内容」をワークシートでチェック(8月までに) ②学年・学部の系統性をチェック(10月末までに) ②令和8年度の「年間指導計画」および「個別の指導計画」の作成(担任:1月までに)	PL:教務主任 SL:学部主事、教頭
		【学校安全】 医療的ケア児童生徒が参加する校外学習を実施し、マニュアルの妥当性の検証	①3月に作成したマニュアルに基づき校外学習の実施と反省(各学部1～2回) ②実施後にマニュアルの妥当性を検証し必要な加筆修正	PL:保健主任 SL:医療的ケア、担当学部主事
子どもに向き合う時間の確保を意識した働き方改革	【残業時間の削減】 平均残業時間を昨年度比5%削減。 【子どもと向き合う時間】 個人で児童生徒のことを考えるまた小チームで児童生徒について話し合う時間の創出 教員アンケート「向かい合う時間」が確保できたの平均3以上【4点満点】	【残業時間の削減】 勤務時間を意識したタイムマネジメント(会議時間の短縮や資料の簡素化使用等)	①令和6年末に設定した校内会議計画に沿って実施。資料は事前に読んでいることを前提に会議を進行する。会議の終わりで意識した運営 ②業務に関わるアプリの使用法の紹介	PL:教頭 SL:教務主任、学部主事
		【子どもと向き合う時間】 会議時間等の削減した上で、個人また小チームで児童生徒のことを考える時間の創出	①令和6年末設定にした校内会議計画に沿って実施 ②1学期の取組から「個人で児童生徒のことを考える」「小チームで児童生徒について話し合う」時間が創出できているかを検証(8月) ②9月に「校内会議の設定」について提案し直す。以降取組と改善を繰り返す(年間を通じて)	PL:学部主事 SL:教務主任、教頭